

植物の生育抑制

果樹試験場も筑波移転機関の一つとして各種の作業に追われている現状であるが、頭の痛いことの一つに苗木育成のタイミングの問題がある。たまたま旧園試から野菜部門が分離したため、その跡地ほ場を苗木育成用にあてているものの、移転の時期が遅れているので、その間に当然苗木はどんどん生長する。落葉果樹は一般に常緑果樹に比べて生長が早いからよけい始末が悪い。大きくなっても移植は不可能ではないが、輸送を含む移植の経費と手間が著しく増大する。したがって、遅れ方によっては始めからやり直しということにもなりかねない。

一方、話しは違ひけれども、現場においては育種が重要な研究業務となっており、そのためには国内の品種はもちろんのこと、年々増加する外国導入品種についても、品種の保存が実質的に義務づけられている。交配実生は適度に生長して早くから結実してほしいが、ただ保存しておくだけでよい品種はあまり大きくなってほしくないし、また著しく多量に結実しないことが望ましい。かといって摘果を強くすれば枝の生長がおう盛となり、せん定を強くすればまた強い枝が発生する。

はなはだ勝手な言い分ではあるが、あくまでも枯れないことを前提として、じつと大きくならないでほしいということである。化学調節により、一時的に、あるいはかなりの期間にわたって、適当な時点で生長をほとんど停止して休息していただくというわけにはいかないものだろうか。

(農林省果樹試験場栽培部長 千葉 勉)

目 次

(第8巻第5号)

新年にあたって 2

＜財団法人日本植物調節剤研究協会＞
会 長 戸 荊 義 次

年 頭 所 感 3

＜農薬工業会会長 吉 田 豊＞

昭和49年度水稻作関係除草剤試験

成績概要

1. 供試除草剤の動向 4

2. 試験結果の概要 5

第1表 区分別委託除草剤数 5

第2表 昭和49年度水稻作関係
除草剤実用化判定表 8

第3表 昭和49年度水稻作関係
実用化除草剤使用基準一
覧表 10

＜財団法人日本植物調節剤研究協会＞

昭和49年度畑作関係除草剤試験

成績概要

I. 供試薬剤 33

II. 対象作物・薬剤別判定結果 ... 34

III. 実用化判定薬剤使用基準 35

＜財団法人日本植物調節剤研究協会＞

昭和49年度水稻・畑作関係生育

調節剤試験成績概要 38

＜財団法人日本植物調節剤研究協会＞

植調協会だより 41